

激動の経営

順風満帆

「アメリカンドリームの実現はそう簡単ではない」。戸津勝行が考案した画期的なトツねじと電動ドライバ―は地元の本社があった時計メーカー、精工

ハイオス

②

舎（現セイコーホールディングス）のほかゲーム機用に任天堂で採用。特に部品製造を支えた内職仕向けに電動ドライバ―が貸し出された。締め付けトルクをキャンセル操作で調整できるため、品質確保の指示が誰にも出しやすかったという。戸津は「ネジ締め用のデジタル化の走りだった」と、その後の快進撃を疑わなかった。加えて電動ドライバ―は時計に留まらずカメラ製造からも引き合いが出始めた。戸津は

大手との相次ぐ競合



東京・赤坂に設立したハイオスのオフィス（ハイオス提供）

三菱商事を販売元とする契約を結び、1970年には東京・赤坂に新会社ハイオスを設立し積極販売に乗り出した。社名は「ホール・イン・ワン（1打で確実に入る）・システム」の頭文字から名付けた。順風満帆にこ

が進み、バラ色の展開が続くと信じた。ところが数年後には大手企業が相次いで参入してきた。「それも国内有数の著名企業という脅威だった」。市場先駆者ではあるもの

徹底抗戦

技術力・知的所有権で戦う

の、改良製品で追い上げる大手に体力で攻め寄せられた。それでも「技術とブランドがあれば生き残れる」と、戸津はそれまでに積み上げてきた特許技術やさらなる新技術開発を武器に徹底抗戦を貫いた。結果、大手各社が撤退していくまで20年あまりを勝ち抜いた。

その一方で厳しい現実も突きつけられた。戸津は電動ドライバ―の新たな可能性として改良版を開発していた。ニッカドバッテリーを搭載し給電ラインを不要にした充電式ドライバ―だ。電源位置に制約されずに作業可

能な特徴が、欧米の自動車メーカーで大成功と言えるところを飛ばした。「主要メーカーから大口受注が次々に舞い込んだ」とうれしい悲鳴を上げたという。しかしその後、これが本当の悲鳴に変わった。結果、大手各社が撤退していき、20年あまりを勝ち抜いた。その一方で厳しい現実も突きつけられた。戸津は電動ドライバ―の新たな可能性として改良版を開発していた。ニッカドバッテリーを搭載し給電ラインを不要にした充電式ドライバ―だ。電源位置に制約されずに作業可

内蔵式から撤退

自動車や関連メーカーでバッテリー式電動ドライバ―が有効であることを証明してしまつたために、大規模な市場参入を呼び込んでしまつたのだ。「新たなバッテリーや充電器の開発など大型投資の障壁もあり、大手各社

（敬称略）